

2025年度 学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

報告者 部長 石橋 恵二

I 自己評価

1. 本校の教育目標

「理想（VISION） 世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる」を校訓に掲げ、中学校までの義務教育の課程で養われた基礎の上に、社会自立のために、職業技術や専門知識、人間としての基礎的な教養や生活力を身につけさせ、実社会や上級校に送り出すことを目標としている。

2. 本年度の重点目標

- 1) 多様性、個性尊重の精神を培う
- 2) 社会自立に向けた実学と職業教育の指導を強化する
- 3) 自己肯定感を育成する
- 4) 表現力を高める
- 5) 進路指導の充実（職業観の育成と社会適応力の強化）

3. 重点目標についての評価（A～D）と取り組み状況や課題

A・・・達成できた B・・・概ね達成できた C・・・達成が不十分 D・・・達成できていない

1) 多様性、個性尊重の精神を培う（A）

- ・ 個々を敬う心や人権ということを常に意識させるために全校朝礼やホームルームでの話はもちろん、各行事などの関わりにおいて、友だちの特性や事情を皆が理解して学校生活を過ごすことを実体験から学ばせるようにした。
- ・ 学年が上がるにしたがってその関わりは当たり前で自然なものになっている。3年生は障害のない生徒が障害のある生徒に対してバディとなってよく支援できていた。

2) 社会自立に向けた実学と職業教育の指導を強化する（A）

- ・ 普通教科の授業内容は社会生活に直結するものを進んで提示し、考えさせた。
- ・ 作業のベースとなるトレーニングを日々行い、各学年の校内実習に向かわせた。
- ・ 昨年度に続き、障害のない生徒は校内実習をインターンシップとして位置づけ、障害のある生徒とともに作業に入っているが、とても真面目に取り組んでいる。
- ・ 今年度より進路指導部の教師から全校朝礼において「ビジネスマナー」について生徒たちに話をしていくこととした。今後も継続していくことにする。

3) 自己肯定感を育成する(B)

- ・ 「自分にはできない」「やっても無駄」などと思っている生徒たちに対して、指導者側が注意するばかりにならず、励まし、前向きになれる言葉かけをするようにした。
- ・ 細かな成功体験を積んで、「自分はできる」「やったらできた」という気持ちは着実に持ててきていると感じている。

4) 表現力を高める(B)

- ・ 日ごろの授業において意見発表したり、文章に表したりする機会をできるだけ多く設けた。また、情報ビジネスコースの生徒たちは、プレゼンテーション作成検定に挑んでいる。
- ・ スピーチコンテストを今年度も実施した。予選には障がいのある生徒も出場しているが、人前で話すことを苦手とする障害のない生徒が自ら志願し、ここで自信をつけているケースも数多くあった。決勝に進んだ生徒たちは自分の経験から考えを改めたことや思いを強くしたことをしっかり主張することができていた。
- ・ スポーツ大会、学園祭(紫峰祭)、合唱コンクールを通して、生徒が司会や進行役等となって積極的に取り組み、自己表現という面でも大きな成長につながった。

5) 進路指導の充実(職業観の育成と社会適応力の強化)(A)

- ・ 3学年 76名(就職 58名、専門学校等の進学 16名、大学進学 2名)全員が進路を決定した。今年度は進学組が例年よりも少し多かった。
- ・ 福祉就労については早い段階で内定がいただけた。また昨今企業が生徒の特性や本人の働く意欲をしっかりと見て、厳しく選考をしているため、進路指導部として実習中あるいは実習以降の企業側とのコミュニケーションを大事にした。
- ・ 障害者枠の雇用にするか否かで、時間をかけて検討・確認するケースもあった。

4. 総合的な評価と今後の課題

- ・ 生徒自身が友だちの個性を理解し、それを受け入れながら学校生活を過ごしていることがよくわかる年度であった。3年生は修学学習において班や仲間を互いに気遣いながら活動し、インクルーシブ社会の在り方をここで実現させているようにも感じられた。
- ・ 今年度の行事は、学年で競うという今までのものとは異なり、全学年で縦割りの3つの「チーム」を作って活動した。どの行事も生徒が達成感を持ってたことと、各行事で上級生が下級生を引っ張り、まとめる姿があり、特に3年生の活躍は見事であった。
- ・ どの生徒も1年前、あるいは入学の時から自分を変えようとする意識はもっている。しかし、日常に流されたり、自分の考えをまとめきれずに悩んだりしたまま、実行に移せない生徒もいることは事実である。
- ・ 3年間皆勤および1年間の皆勤・精勤になる生徒の割合が減っている。自分の健康を考えてのこともあるが、社会人のレベルとして考えた時にどうか、悩ましいところである。

Ⅱ 学校関係者評価

1) 多様性、個性尊重の精神を培う

- ・ 学年の横のつながりはもちろん、学年を越えた関わりが今年度はとても多く感じられた。
- ・ 高等専修は生徒同士の関わりや交流が下級校よりも濃密であると感じる。校外学習でも他学年と関わる機会があり、部活動においても先輩に憧れ、学んだり共感したりしている様子もうかがえる。
- ・ 登下校時に声をかけてくれる先輩たちがいて、それが保護者としてもうれしく思った。また、個々の特性をよく理解した上での行動は頼もしくもあり、救われる気持ちになったこともあった。
- ・ SNS上のやり取りで気になることは時々あり、学校での情報リテラシー教育を引き続きお願いしたい。

2) 社会自立に向けた実学と職業教育の指導を強化する

- ・ 校内実習は社会に出る前の実践的経験となり、作業における緊張感や自分の役割を知る機会であった。学校での指導によって多くのスキルを身につけていくが、家庭でも協調してトレーニングをしていく必要があると思った。
- ・ 各教科の授業が自立のために必要な内容になっているのか、今後も絶えず検証してもらいたい。
- ・ 成年年齢としての自覚を促す指導として、今年度も金融教育で外部から講師を招いて特別授業を行ってくれたことはよかった。

3) 自己肯定感を育成する

- ・ 先生たちの日々の励ましやプランノートでのアドバイスが子どもにとって何よりのやる気につながる。それは親にとっても励みになり、気づきにもなって有り難い。
- ・ スクールカウンセラーの人から「自分が気持ちよく生活するために気をつけること」をテーマに特別授業をしてもらえたことはよい機会だったと思う。

4) 表現力を高める

- ・ 我が子が先生たちから言われたことに対して「メモをとる」という習慣が身につけてきて、聞き逃さない気持ちが育ち、それを活かして正しく行動するようになっている。
- ・ 行事ごと、学期ごとに感想文を書いてきたが、自分の考えをまとめる力は着実に付いたと思う。
- ・ 年度末の「生徒活動報告会」を3年生保護者に参観できる機会を与えられて、実際に行って聞いてみた。生徒たちが一年間で何をして、何を学んだかをよく理解できた。またスピーチコンテストの代表者の発表は自分の親のこと、友だちのことを真っ直ぐに表現していて、3年間の積み重ねを感じ、感動した。
- ・ スピーチコンテストの予選で、障害のある子の発表に普段一緒に活動している生徒が

隣に立ち、インタビュー形式でその子の発表を促していることもあると聞いた。そうしたケースを保護者にもぜひ共有してほしいと思う。

5) 進路指導の充実(職業観の育成と社会適応力の強化)

- ・ 今年度から始まった進路指導部の就労に向けた配信(映像)はとても良かった。毎月準備するのはたいへんと思うが、貴重な情報が多く、次年度もお願いしたい。
- ・ 生徒への「ビジネスマナー」についての講話が何回かあったが、具体的な事例について実演を交えてのものだったので、わかりやすく、ためになったと子どもから聞いている。
- ・ 実習先決定やその開始日も内定が出る時期もそれぞれ違うことや、手帳更新のことや公の機関への登録について、もっと保護者に理解を促すようにしてほしいと思う。
- ・ 療育手帳の更新や重度判定について細かく指導をいただいたが、手続きでわかりづらいところもあったので、過去の進路指導部からの配信映像を見返すことができとても助かった。

以上